

離床センサーシステム

EPS

Eye&Person&System

ご導入施設

インタビュー

Vol.4



所在地 〒811-3195
福岡県古賀市千鳥1丁目1-1
TEL 092-943-2331(代表)

独立行政法人 国立病院機構 福岡東医療センター 様へ

インタビューしました

ご施設紹介

福岡東医療センター様は、1962年に国立福岡療養所、国立療養所清光園、国立療養所福寿園が統合して国立療養所福岡東病院として発足、2004年に独立行政法人に組織替えされました。

この間療養所から急性期病院へ大きく舵をとり、種々の病態を併せ持つ結核患者や重症心身障害児(者)に対応可能な医療機能を整備し、三次救命救急センター、第1種感染症指定機関である感染症センターを開設、がん診療連携拠点病院でもあります。

病院の基本理念は「当たり前のことを実践し、地域に信頼される病院」を掲げられ、病院の運営方針としては

1. 全ての思いを汲み全ての力を結集し、安全で安心な医療を提供します。
2. 地域に開かれ、地域に根ざした病院を目指します。
3. 職員が一体となり健全な病院経営に努めます。

を掲げ、地域の急性期医療を担い、地域の皆さんが安心して生活できるよう地域の医療機関、行政と連携協力を続けられています。

看護部門の理念は「誠実と信頼」を掲げられ、

【基本姿勢】

- 私たちは、患者様の望むことに丁寧に対応します
- 私たちは、自信をもって看護を提供します。
- 私たちは、「組織」の一員として、目標へ向けて努力します。

この理念のもと、日々の看護の専門性を追求されています。

医療安全については、患者様や職員全ての不安に耳を傾け、患者様と職員、病院の相互信頼を育み、信頼に基づく医療安全を目指しています。また、医療事故は、報告の遅れや不明確な報告に基づく誤った判断が原因となる事が多いため、福岡東医療センター様は総力をあげて、「速やかな報告と十分な審議」が患者さんと職員を守ることを伝え、意識改革に日々努められています。

具体的にはインシデント発生後の報告体制の確立及び徹底、医療安全回診、事故処理の経過の関係者への伝達や医療安全研修等です。

この度、株式会社イムズ製の離床センサーEPSシステムを病棟へ導入するにあたって、馬場文子医療安全管理係長へインタビュー致しました。



馬場文子
医療安全管理 係長

当病院の性格上、各病棟において様々な支援介護を行う必要があります。当病院は急性期病院であり、感染症センター、がん診療連携病院でもあるため、様々な支援や看護を行っています。医療安全の中でも転倒・転落防止については、患者様の状態をアセスメントし個別に対応策を考えて様々な対応を行ってきました。離床監視については、マットセンサー等を活用しながら他のセンサーも組み合わせ安全な運用を心がけていますが、従来のセンサーでは誤報症例などもあり、患者様の安全を確保が出来ている状況とは言えませんでした。

今回、従来の赤外線センサーとは異なる人の熱を感知する新しい原理のEPS離床センサーシステムを複数台数導入することにより、患者様のベッドでの動きが早期に分かり、安全を守る一助になっています。

また、本センサーシステムは、設置取付が簡単で、設置場所を選ばないので、感染症センターの出入口に設置し、人の出入りをナースセンターで管理出来、無断離院防止対策としても活用できています。

新カメラシステムは患者様の動きを手元のスマホで直接確認でき、患者様の安全確保の向上が期待できるのではないかと思います。

今後は新カメラシステムの導入検討も含め、安全対策の取り組みを強化していきたいと考えています。

● 病棟での設置状況

使用機種：離床センサーEPSシステム

使用病棟：脳外、脳内、感染症病棟



出入口・上部への設置



出入口・側部への設置



ベッド枠への設置



ベッド下への設置



今後、カメラシステムを導入準備の検討も含め安全対策を進めております。



製品のお問合せ先